

美しいものを美しく見せるために

美術館はエコでなければ運営出来ない

根津美術館の場合

EVFセミナー2015.6.25

# 根津美術館の場合

- 昭和15年初代根津嘉一郎のコレクションを先ず財団にした
- 昭和16年美術館が私邸を利用して開館
- 私邸で5回展覧会を行っている
- 東京大空襲で全焼 コレクションは疎開して無事
- 昭和21年11月にバラックを建て展覧会を再開
- 昭和31年 美術館開館 空調無
- 平成2年 平成館開館
- 平成9年 新館開館 全館空調付き

# 夢と理想を育んだ現実

- 昭和56年に着任してからの課題  
展示ケースが作品に適していない  
平成一年に改築し一部は改善された
- 昭和29年建設の美術館の問題点  
空調が無いこと  
社会環境の著しい変化に対応できなくなっていたこと

**人は美術館に何を期待するのか**

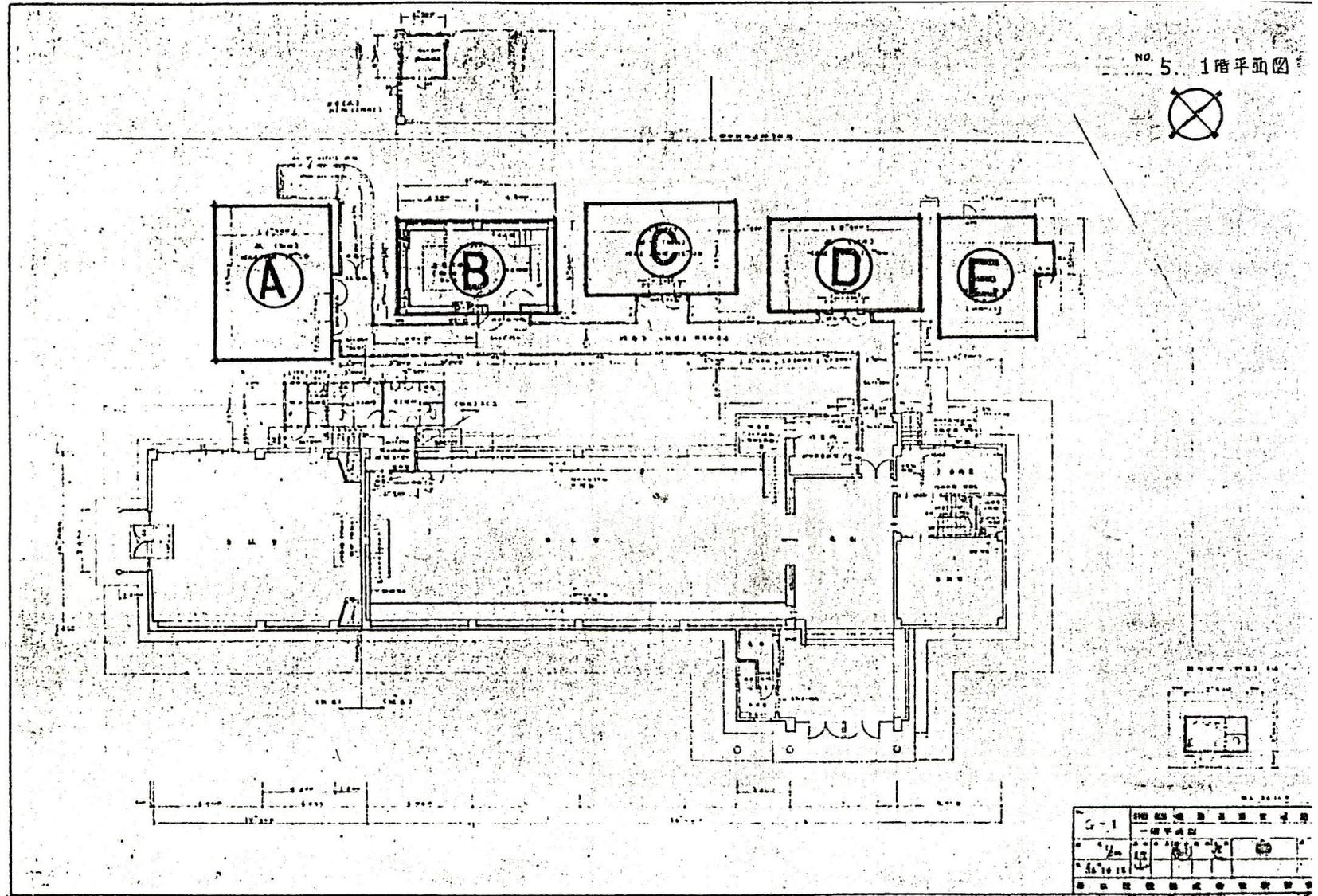
**面白い展覧会**

**照明の良さ**

**落ち着ける環境**

**ショップ・カフェなど**

# 昭和29年竣工の美術館



# 旧本館



# 自然光の入る展示室



# この建物の問題点

## 1. 展示ケースの問題点

- \* ケース内で二枚折り屏風が開かない
- \* ケースの高さが低い
- \* 作業中に怪我することが多い構造

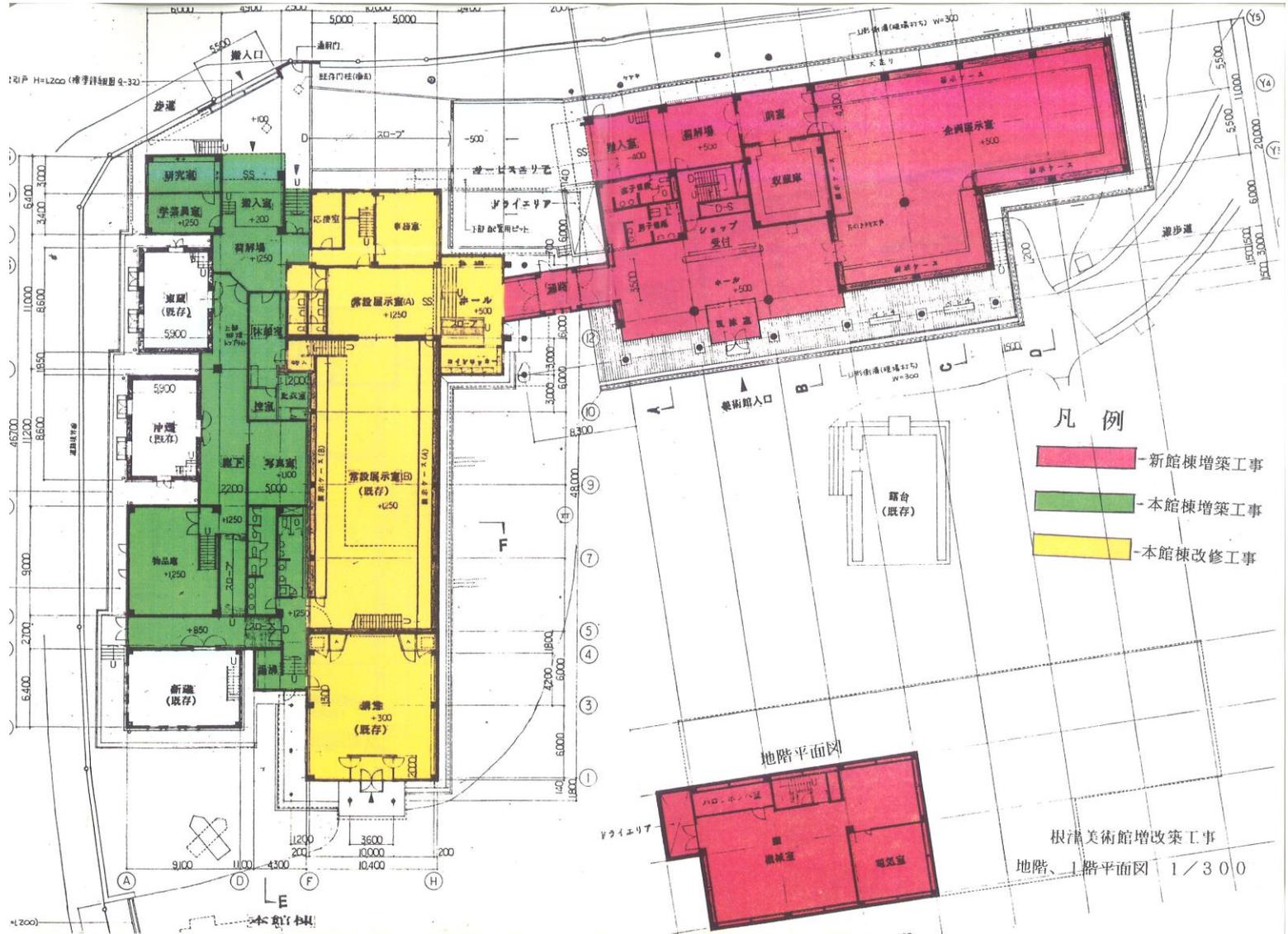
## 2. 蔵の老朽化

## 3. 管理部分(バックヤード)が狭かった

## 平成二年の改築時の夢と希望

- 来館者にとって魅力のある美術館
- 来館者だけでなく研究者も集まり、21世紀の美術館活動の要になる ような美術館
- 「建物」ではなく展示する場、空間としての美術館であること
- 多目的に展示ができること
- 収蔵庫の環境の改善

# 平成2年の増改築



# 平成2年に増築した展示室棟



# 美術館用蛍光灯が活躍した展示室



## 増改築で残った収蔵庫の課題

- 所蔵品が多くなって、蔵が狭くなった
- コンクリートの廊下に接続したため、環境の変化が顕著となった
- 高温高湿、低温高湿の状態が続くようになった
- 黴の発生が多くなった
- 瓦が落ち、雨漏りの心配が発生
- 青銅器展示ケースの不具合

# 改築で残った古い蔵



# 蔵の整備の問題点

- 環境の整備が可能か否かの検討
- 瓦を葺き替えることで蔵が再生するか否か
- 検討会の調査で、蔵は極端に狭いことが示された
- 大切な文化財を守るため、蔵の新設が急務であった

# 理想の蔵を作ろう

美術館、博物館の収蔵庫見学の成果として

- 作品のための収蔵庫をつくる→広いこと
- 棚の置き方が大切→環境の良いこと
- 棚はスチールで扉をつける→免震であること
- 掃除が容易にできること

## ケースと照明を検討する

- 既製品ではないケース そして照明
- 操作が簡単であることが条件
- LEDを使うという冒険  
問題は赤色

## 理想の展示ケース

- これまでの欠陥を踏まえての注文
- 構造への要望は、メンテナンスが容易であること、開閉が容易であること
- 独立ケースのデザインへの要望は、ハット型であること
- 色や素材は、作品をもって検討すること
- 照明は「赤」が美しく見えるLEDであること

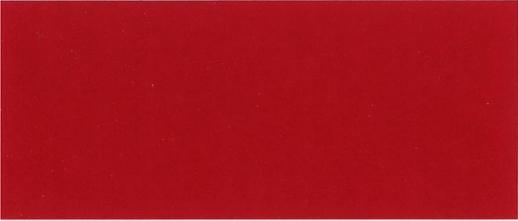
# 書画展示照明 の検討



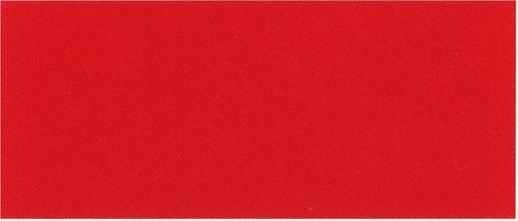
# 赤色の問題



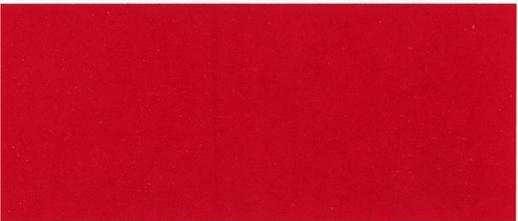
# どのような赤が欲しいのか



深緋  
●こきひ



猩々緋  
●しょうじょうひ



紅色  
●べにいろ



茜色  
●あかねいろ



蘇枋色  
●すおういろ

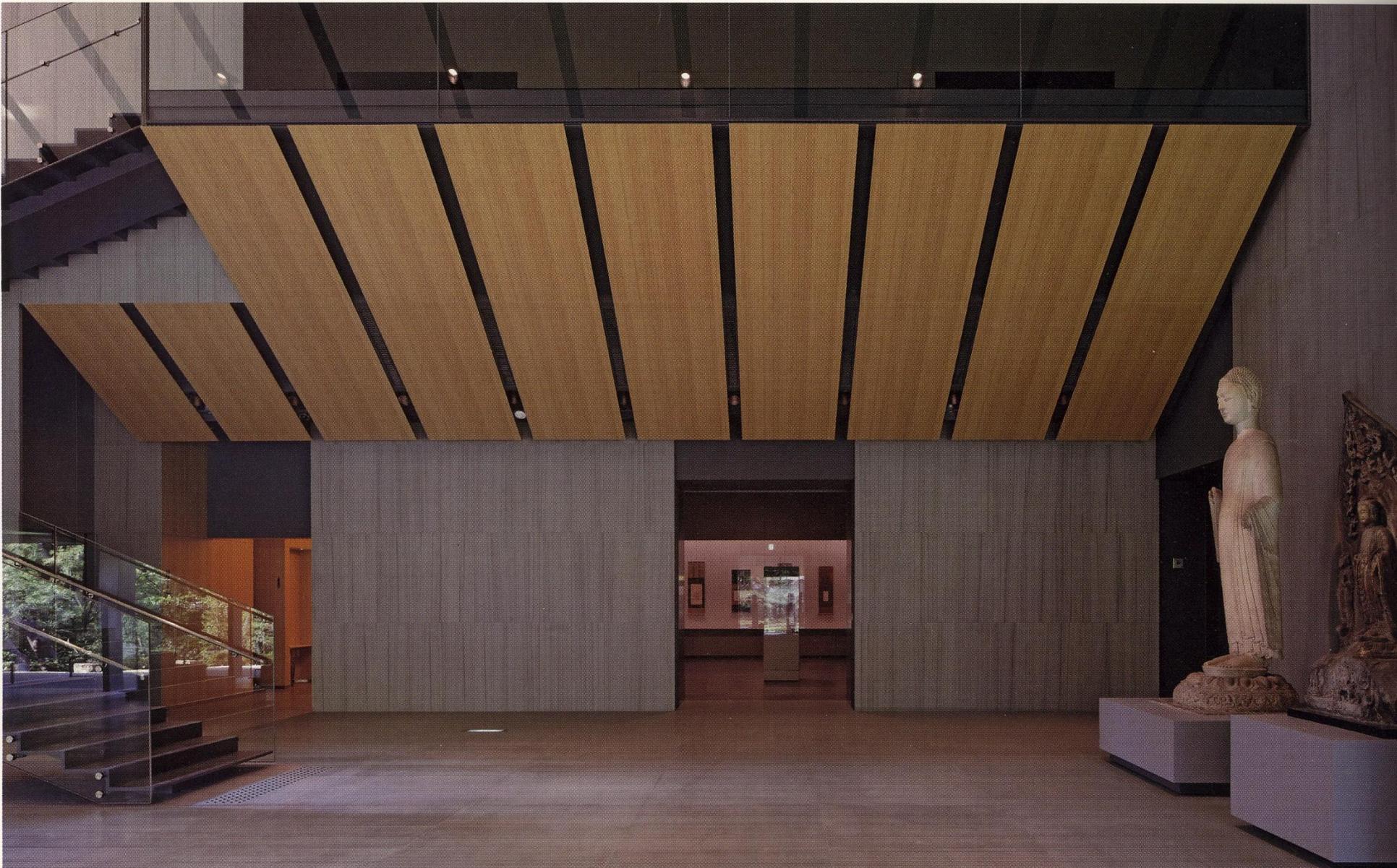


臙脂色  
●えんじいろ

# 自然光を取り入れたロビー



# 展示室2の大問題



# 床の色と素材の検討



# 天井の色と素材の検証





# 青銅器の背景と 照明の関係

# 青銅器のケース テトラケース



# 本格的な茶室を作りました



これがLED!



# 展示ケースの照明の移り変わり

## 1. 蛍光灯と白熱灯の時代

紫外線が問題になった頃

## 2. 美術館用蛍光灯の時代

白色灯と昼光色灯

調光ができるようになった

## 3. ハロゲンが導入された頃

熱と音をどうするのか

## 4. LEDが紹介されて

欲しい色が得られるのかという疑問

## 5. 有機ELの時代へ







# 太陽光発電 にも挑戦



Ten scenic spots of the garden

根津美術館の庭園は、創立者の旧邸で、美術品とともに寄附されたものです。以前は荒野原であったところを、青山翁が明治39年にこの地を求めてから数年がかりで造園したもので、千利休が茶庭の極意として示した「檜の葉の紅葉ぬからに散りつる奥山寺の道の悲しき」

の言葉そのままの、自然味の深い庭園です。

the Museum

pond

ony setting in Ichiju'an

te



- ② 東くまの
- ③ 八ッ橋の池
- ④ ほたらか山
- ⑤ 明月門
- ⑥ 薬師堂
- ⑦ 一樹庵・披錦齋
- ⑧ 斑鳩庵・清溪亭
- ⑨ 閑中庵・牛部屋・水琴窟
- ⑩ 飛梅祠
- 喫茶室ガゼボ

⑥ 薬師堂 Yakushido shrine

⑧ 斑

